

20年竣工でVLGC発注、川崎重工に

■クミアイ・ナビゲーション、スクラバー搭載

くみあい船舶100%出資のシンガポール船主、クミアイ・ナビゲーション (Kumiai Navigation <Pte> Ltd) は2020年の引き渡しで8万2200m³型の大型LPG船 (VLGC) を川崎重工業に発注した。排ガス中のSO_x (硫黄酸化物) を除去するスクラバーを装備する。このほか、既に発注済みで19年第1四半期竣工予定のVLGCにもスクラバーを追加搭載する。また、19年の竣工船については、このほどLPG元売り会社ジクシスとの用船契約に投入することを決めた。

クミアイ・ナビゲーションは継続的にVLGCの新造整備を行っている。VLGCの保有船隊は4隻、新造発注残は2隻となった。新造船の建造ヤードはいずれも川崎重工。この新造船2隻ともSO_xスクラバーを搭載することを決めた。日本で建造されるVLGCにスクラバーが搭載されるのは初とみられる。

今回発注した新造VLGCは19年竣工船と、今年竣工しLPG元売り会社ジクシスとの定期用船契約に投入した船の姉妹船となる。スクラバー装備船はエンジンルームのケーシングを大きくする必要があるので、外観は少し異なっ

くる。

クミアイ・ナビゲーションの黒柳智丸マネージング・ダイレクターは、スクラバーの搭載を決めた理由について「環境問題への取り組みは今後加速していこう。2020年に施行されるSO_x規制を念頭に発注した。欧州のオペレーターの中にはスクラバーがないとビジネスの俎上にも載せないところも出てきている。船主として対応が遅れると致命的になりかねない。スクラバーは現時点では非常に大きな設備費用がかかるが、グローバルなマーケットでの競争力を維持するためにもグループとして積極的に対応していく」と説明

する。

また、LPGの需要については「LPGはクリーンエネルギーであるとともに、原料としての利便性、また日本のLPG大手元売りが推進しているLPGバンカー構想等もあり、将来的に堅調に需要が伸びていこう」と、今後の需要拡大を見込む。

クミアイ・ナビゲーションの保有船隊は現在16隻。VLGC4隻のほか、バルカーが12隻 (ケーブサイズ6隻のうち4隻がニューキヤッスルマックス型>、スープラマックス4隻、パナマックス1隻、石炭船1隻)。VLGCのほか新造発注残はない。